

オサシダ

- 岩場に生え、緑をそえるシダである - (7月)



オサシダ 裏六甲の谷筋の岩場に群生する。

六甲山地に生えるシダを代表するものの一つである。

日本の各地にかなり広く分布するが、普通によく見かけるといふシダではない。西六甲の比較的高いところに自生地があるが、東六甲では頂上近くから、かなり低いところまで分布し、群生地もある。

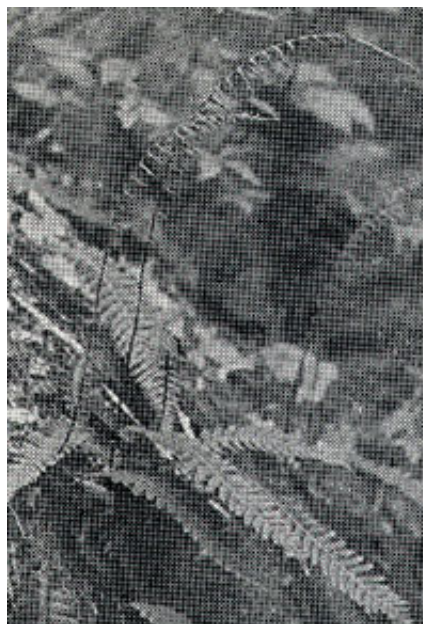
このオサシダは、低山地にも普通に見られるシシガシラと非常によく似ているので、なれないと両者の区別はつきにくいだが、根もとに注意すると、すぐわかる。

シシガシラは、[根茎](#)は太短く、斜めか、直立し、葉を[車座](#)につけているのに、オサシダの[根茎](#)は岩や土の上をはって、葉は垂れ下がり気味である。

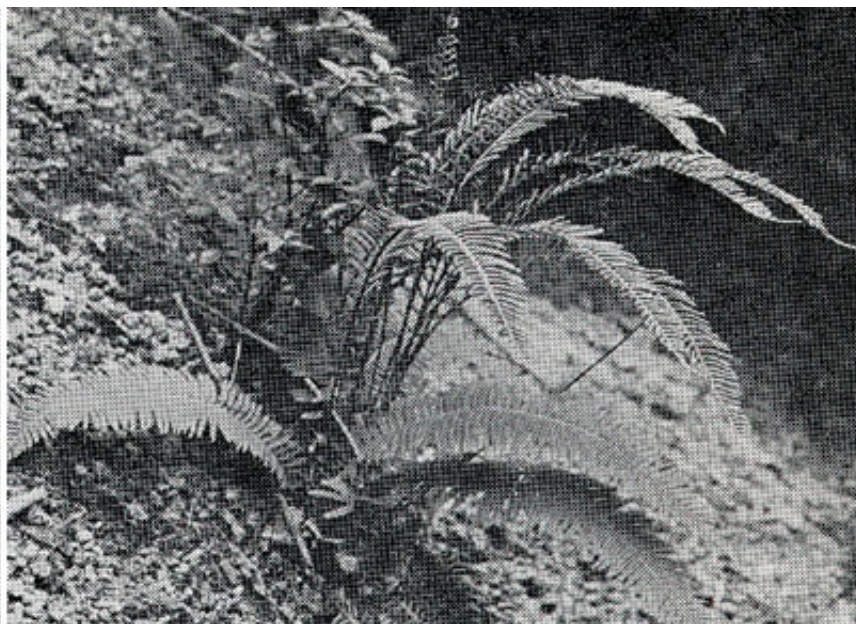
[根茎](#)や[葉柄](#)基部の[鱗片](#)をみると、シシガシラでは細長く、暗褐色であるが、オサシダでは、うすい褐色で幅が広い。

このなかまには、もう一種ミヤマシシガシラがあって、この3つのシダを表にして比較しよう。

		ミヤマシガラ	オサダ	シガラ	
生態	生	<ul style="list-style-type: none"> ・温帯林下の排水のよい傾斜地に自生する ・通風もよく直射日光のあたらないところに自生する ・兵庫県での垂直分布900～1,200m 	<ul style="list-style-type: none"> ・排水のよい山地の岩上, または地上に生じる ・向陽地にも自生する ・500～900m (六甲山で) 	<ul style="list-style-type: none"> ・低山地から高山の林下にかけて普通に生じる ・やや乾燥地に多く生じる ・30～1,900m 	
	色	<ul style="list-style-type: none"> ・葉柄・葉 ・濃い緑 ・暗紫褐色または赤褐色 	<ul style="list-style-type: none"> ・淡緑色 ・褐色～赤褐色 	<ul style="list-style-type: none"> ・オサダよりやや濃い緑 ・黄褐色 	
形態	根茎	<ul style="list-style-type: none"> ・短く匍匐する(斜上型) 	<ul style="list-style-type: none"> ・長く匍匐するものがある 	<ul style="list-style-type: none"> ・短く斜上, または直立型 	
	鱗片	<ul style="list-style-type: none"> ・形・長さ・つき方 ・線形・皮針形で細くとがる ・3～5mm, 暗紫褐色 ・葉柄基部にややまばらにつく 	<ul style="list-style-type: none"> ・皮針形, 卵状披針形 ・5～8mm, 褐色 ・葉柄基部に卵状のものがまばらにつく 	<ul style="list-style-type: none"> ・線形で細くとがる ・10～15mm, 褐色～暗褐色 ・中軸, 葉の裏面までかなり多くつく 	
	裸葉	羽片	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広く4～7mm ・先端はまるく鈍頭 ・基部は中軸に広がってつく ・下部羽片は中軸に広く合着する 	<ul style="list-style-type: none"> ・幅せまく2～4mm ・先端はまるく鈍頭 ・前側が広がってつく ・下部羽片は中軸に広く合着する ・オサダのみ完全に羽片が独立する 	<ul style="list-style-type: none"> ・先端は鈍頭または鋭頭 ・前側が広がってつく ・下部羽片は中軸に広く合着する
		葉脈	<ul style="list-style-type: none"> ・羽片の中肋は表面に浅いみぞがはっきりみられ, 裏面も隆起する 	<ul style="list-style-type: none"> ・羽片の中肋は表面にみぞがみられず裏面も隆起しない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミヤマシガラに同じ
		葉身	<ul style="list-style-type: none"> ・胞子葉より短い幅は広い 	<ul style="list-style-type: none"> ・胞子葉より短い幅は広い 	<ul style="list-style-type: none"> ・胞子葉より短い幅は広い
		葉柄	<ul style="list-style-type: none"> ・中軸にかけて多くの細点がみられ, 葉柄は長い 	<ul style="list-style-type: none"> ・かなり長い 	<ul style="list-style-type: none"> ・かなり短い
	実葉群	羽片	<ul style="list-style-type: none"> ・上向きにつき一方にまがる 	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養葉より幅が狭いのでまばらにつくように見える 	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養葉より幅が狭いのでまばらにつくように見える
		胞子囊群	<ul style="list-style-type: none"> ・羽片の中肋に平行して1列にならび包膜は中肋に向って開く ・外側にはごくわずかな辺縁がつく 	<ul style="list-style-type: none"> ・羽片の中肋に平行して1列にならび包膜は中肋に向って開く ・包膜と同じ幅の辺縁がつく 	<ul style="list-style-type: none"> ・羽片の中肋に平行して1列にならび包膜は中肋に向って開く ・包膜の幅の半分ほどの辺縁がつく
		葉身	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養葉よりかなり長い, 2倍近いものもある 	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養葉より長い 	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養葉より長い
		葉柄	<ul style="list-style-type: none"> ・長く13cmぐらいになる(長いもの18cm) 	<ul style="list-style-type: none"> ・かなり長い(平均6cm) 	<ul style="list-style-type: none"> ・下部羽片がとげ状になってかなり下までつくので短い
分布	<ul style="list-style-type: none"> ・日本特産 ・本州(東北・関東北部・北陸・山陰) ・(兵庫県) 氷の山・扇の山・上山高原 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本特産 ・九州・四国・本州 ・(兵庫県) 六甲山・小金が岳・笠形山・霧が滝・栃原・河原谷 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本特産 ・北海道から九州・屋久島まで ・(兵庫県) 広く分布する 		



ミヤマシシガシラ (扇の山)



シシガシラ

三つのシダに共通する特徴としては、表からもわかるが、次のことがあげられる。

1. [常緑性](#)のシダである。
2. [実葉](#)・[裸葉](#)の二形になる。
3. [胞子のう群](#)のつく[実葉](#)の[羽片](#)の幅が狭く、[胞子のう群](#)より外側の部分は葉脈が発達しない。
4. [胞子のう群](#)は、[羽片](#)の[中肋](#)に平行して一列につく。
5. [羽片](#)は、くしの歯状に深裂または全裂する。

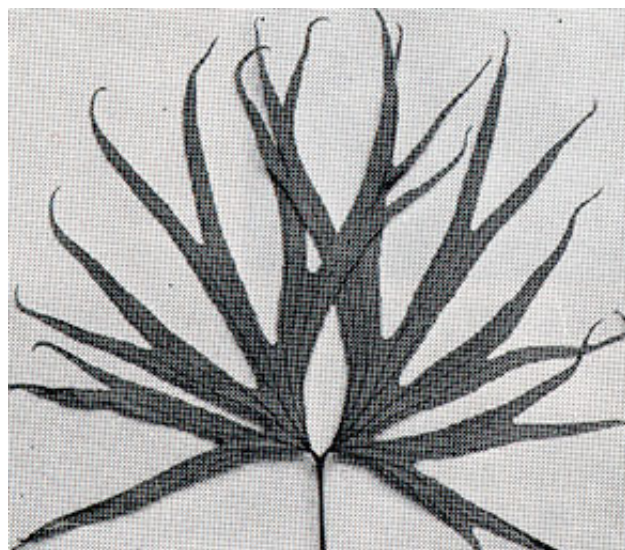
日本では、屋久島から南、沖縄にかけて広く分布しているヒリュウシダとは、葉が著しく二形になることで、属を分ける学者と一つのヒリュウシダ属にまとめる学者とがある。

オサシダは風化のはげしい六甲山にあって、岩場やその近くの地面に生え、山に緑をそえると同時に、必死に岩面の崩れを防いでいるシダのようだ。

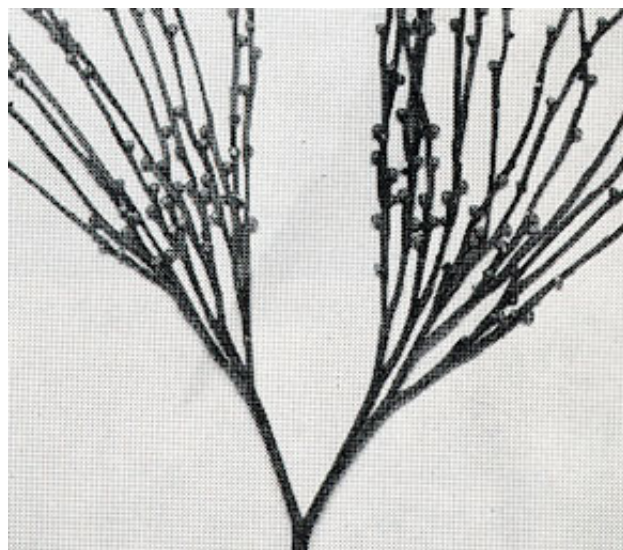
葉身の分枝と切れこみ

[二又分枝](#)...ヤブレガサウラボシ

[羽状分枝](#)...大部分のシダは羽状に分枝した羽状葉である



ヤブレガサウラボシ



マツバラシ

1. 単葉

葉の羽片の分かれのないもの、ノキシノブ・ヘラシタ・クリハラン

2. 単羽状複葉

葉柄の延長の中軸の両側に、単葉状の葉片がならんだようなもの、ヤブソテツ・タマシタ・ミゾシタ

3. 二回羽状複葉

中軸から羽軸が分かれ、羽軸の両側に単葉状の葉片（小羽片）がならんだようなもの、ペニシタ・ヒロハイヌワラビ・シロヤマシタ

4. 三回羽状複葉

二回羽状複葉の小羽片がさらに羽状複葉になったもの、ヌリワラビ、オニカナワラビ・オオカナワラビ、さらにもう一回切れこめば四回羽状複葉といい、五回羽状複葉までである。

